

# 新年を迎えるにあたって

新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

酪農家並びに関係者の皆様におかれましては、日頃より、本会議事業につきまして、格別のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。新春を迎えるにあたり、最近の酪農を巡る情勢を踏まえ、所信の一端を述べさせていただきます。

一年を振り返りますと、昨年の皇位継承に伴い、祝賀ムードの中で一連の式典が執り行われ、令和として初めての新年を迎えました。また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を翌年に控え、日本で開催されたラグビー・ワールドカップにおける日本代表チームの目覚ましい活躍は、日本中を大いに沸かせました。

一方、世界経済においては、米国などにおける保護主義の台頭による先行きへの不透明感が広がった一年でした。さらに、地球の温暖化により、北極の氷やヒマラヤの氷河が解け始め、太平洋に浮かぶ国々が海面の上昇で沈む危機に直面し、世界各地で大型台風や洪水、干ばつなど異常気象が常態化する傾向にあります。とくに、干ばつが原因とされる豪州東部での森林火災の拡大により、引き続き農畜産業への影響が懸念されております。

国内に目を転じますと、夏から秋にかけては、集中豪雨、台風による河川の氾濫・決壊など災害も続きました。これらにより、多数の方々が被災されたほか、農作物や家畜、農畜産業の関連施設にも甚大な被害が発生いたしました。被害に遭われた皆様には、心からお見舞い申し上げます。なお、本会議が実施いたしました義援金の募集につきましては、酪農家をはじめ関係者の皆様に特段のご配慮を賜り、改めて感謝申し上げます。

さて、わが国の酪農産業をめぐっては、平成30年12月の「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（TPP11協定）」の発効に続き、「日EU経済連携協定」が昨年2月1日に発効したほか、「日米貿易協定」が本年1月1日に発効することとなりました。今後は、国際化の進展に伴う乳製品輸入圧力の増加に対処するため、国産牛乳乳製品の価

## 一般社団法人中央酪農会議 会長 中 家 徹



値をさらに高めるよう、生乳の安定的な供給に加え、総合的な品質をさらに高めるための取組が求められております。

このように国内外の情勢が急激に変化する下で、わが国の酪農では乳用牛飼養頭数が昨年に引き続き増加するなど、生乳生産に回復の兆しが見え始めております。しかし、担い手の高齢化や後継者不足、規模拡大に伴う労働負担の増大、環境問題への対応などの問題が山積しており、これらの諸問題に取り組みながら、酪農の生産基盤を確固たるものとする必要があります。

そこで本会議におきましては、酪農家の皆様が『誇り』、『やりがい』、『夢』を持てる酪農産業を確立していけるよう、「指定団体の組織機能強化・流通対策」、「生乳需給安定化・生産基盤強化事業」、「酪農理解醸成の活動」を令和2年度事業の重点項目として実施してまいります。

本年は、改正畜安法の施行後3年目となります。生乳受託を巡っての課題が見られる中、将来に亘る酪農の安定的な発展のためには、指定団体が生乳の取引、流通、需給調整等に果たす機能と役割が不可欠です。酪農家並びに関係団体の皆様には、その趣旨と重要性を踏まえた慎重な取組をお願いしたいと存じますし、本会議でも引き続き丁寧な説明や情報発信に努めて参りたいと考えております。加えまして、「生乳需給安定化・生産基盤強化事業」におきましては、酪農家戸数の増加を目指し、特に新規就農の拡大を重点に、新たな取組を開始して参りたいと存じます。

わが国の酪農は、今後、大きな変化を向かえようとしております。本会議といたしましても、酪農家の皆様が夢や誇りを持って将来に希望を持ち、安心して経営を持続できるよう、指定団体及び会員組織の皆様と連携し、一層邁進して参る所存です。

多産で縁起の良い鼠年にあやかり、本年が皆さまにとって希望に満ちた明るい年となりますことをご祈念申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。